



中立エコミニ通信

第 19 号

2024年11月 《発行》 中立エコ生活推進会議 議長 藤原 信生

プラごみ問題学習会開催

10月22日中立会館で、中立エコ生活推進会議主催で学習会を開催しました。

講師に「NPOエコネット近畿」の堀孝弘さんをお招きして、「プラスチック問題と、私たちができる取組～スーパーマーケット環境調査から見たこと、今後の展開～」をテーマにお話しをしていただきました。

今、現在、私たちの国からも大量のプラごみが川から海へと流れ込んでいる現実があり、それらは、海洋生物に多大な被害をもたらしています。この海洋プラごみ問題は、世界の首脳会議でも幾度となく話題にあがり、世界は「脱使い捨てプラスチック」へと向かっています。

例えば、日本では、まだ、野菜や果物のほとんどがプラスチック包装されて販売されていますが、アメリカのスーパーでは、ほとんどの商品が「はだか売り」され、フランスでは野菜・果物の販売時のプラスチック包装が禁止される法律が成立しました。

また、スーパーマーケットの環境調査結果から、レジ袋の削減率は全国有料化の実施以降削減が進みましたが、他の使い捨て



てプラスチック削減の取り組みはあまりされていないことがわかりました。青果物売り場のはだか売り率は、棚面積比20.1%、商品点数比17.0%という

結果でした。省エネや再生可能エネルギー、食品ロス削減や環境情報の掲示などの取り組みもかなりバラツキがあるようです。

このように、日本は世界から遅れをとっている現状がありますが、まずは現状を知ることが大切です。そのうえで、少しずつプラスチックを減らしていくことの準備をしていき、可能なことから実践していくことで、更にもう一步先まで進むことができるのではないかとのことでした。

私たちは、まず、今できることが何かを考えて、小さなことからでも実行していかなければならないと痛感しました。



全国スーパーマーケット環境調査2024「お店のプラスチック調査」の参加申込みフォームはこちらから☞



第92回堀川清掃について

「堀川と堀川通りを美しくする会」では、下記の通り堀川の清掃を行いますのでご案内申し上げます。

どなたでもご参加できます。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

日 時 令和6年11月17日(日)午前7時 午前6時現在雨天の場合中止

集合場所 みどり公園内(中立売通小川角)

清掃場所 戻橋～下長者町橋

堀川と堀川通りを美しくする会中立学区代表

辻 井 啓 三 郎

TEL 431-0776

第93回は12月15日開催予定です。1月はお休みとなります。

苑西マルシェ開催

日 時 12月7日(土)

午前10時

場 所 新町小学校

☆今年も京北から新鮮な野菜が届きます

☆住協から屋台を出店

☆奮ってご参加ください

環境施設見学会に参加しました

10月10日、上京区地域ごみ減量推進会議主催の環境施設見学会で「豊中市伊丹市クリーンランド」に見学に行ってきました。豊中市と伊丹市が共同で運営され、施設は豊中市にあります。大阪国際空港に隣接しており、展望台から飛行機の発着の様子を見ることができました。

施設内には、「ゴミ焼却施設」と「リサイクルプラザ(愛称：豊中伊丹スリーR・センター)」があり、令和2年には、旧焼却炉の跡地に、訪れる方の憩いの場として「クリーンランドひろば」をオープンしました。

豊中市 人口398,934人
ごみの排出量
1人1日あたり740グラム
伊丹市 人口195,881人
ごみの排出量
1人1日あたり735グラム

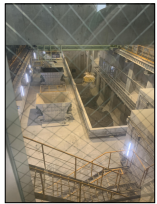
森の中の再生工場

「森の再生工場」をイメージして施設は作られています。

キャラクターは、ゴミ袋をモデルにした、森の中の再生工場に住むふくろう「ごみぶくろう」です。



ごみ焼却施設



ごみ焼却施設は、『環境に配慮した施設』『安全で安心な市民に愛され貢献する施設』『経済性に優れた施設』を目指して建設されました。

1日に最大525tのごみを処理することができますが、現在は397tのごみが処理されています。

収集車がごみピットにごみを投入するプラットフォームには、自動扉やエアーカーテンが設置され、臭気が外部に漏れないように工夫されています。

ごみピットに投入されごみは、粉碎攪拌され、ごみホッパーへ投入され、完全に焼却された灰になるまで3.5時間かかります。ごみは、900℃の高温で安定的に処理され、有毒ガスを取り除く排ガス処理は、国の基準値より更に厳しい基準値を設けて処理されています。

焼却過程で発生する熱を利用して最大14,000kwの発電を行っています(発電効率は20%以上)。これは一般家庭4万世帯が使用する量にあたります。これらの電気は施設内で使用し、残った電気は売電しています。

なお、煙突の高さは45mですが、空港の高さ制限の関係上、この高さにせざるを得なかったそうです。ちなみに、京都市の南部クリーンセンターの煙突の高さは78mです。

また、2つの市から別々の型のパッカー車が往来していて、京都ではみられない光景を見ることができました。



ごみクレーン



リサイクルプラザ

リサイクルプラザ(愛称：豊中伊丹スリーR・センター)は、資源循環型のまちづくりをめざして誕生しました。スリーRとは、Reduce『減らす』・Reuse『再使用』・Recycle『再利用』のことです。1日に134tのごみを処理することができますが、現在は、103t(不燃ごみ53t、資源物50t)のごみを処理しています。

持込まれたごみは、不燃ごみ、プラスチックごみ、缶類、びん類、ペットボトル、剪定枝、小型家電製品・電池等の種類別に用途にあわせた処理がなされていきます。例えば、プラスチックはプランターなどに、木の枝は細かくチップにして土壌改良材として再利用されます。

また、手作業による分別が行われているので、割れたびんなどによるケガや、充電式電池による火災も起こっているため、ごみを出すときには十分な注意が必要とのことでした。

見学施設としての役割

「ごみを知り、ごみと向き合い、まちの環境を考える場」「楽しく学べる啓発施設」としての役割を果たすため、見学ツアーが設定されています。作業状況を実際にみたり、炉内疑似体験装置や蒸気タービン発電模型などでしくみを体験したり、大型パネルやグラフィックウォールなどを通して知識を得ることができます。実際にいろいろと体験できることは、理解する上で大変役に立ちますし、記憶としても定着しやすいと感じられました。



焼却炉の模型

最後に

施設は、廊下も広く室内も明るく清潔でとても気持ちよく見学ができました。二つの自治体が協力することで、より充実した施設となったのではないかと思います。また、市民の負担を考えると、他の自治体と協力してごみ問題を考えていくことは必要なことではないかと感じました。